

復興へのヒントを学ぶ

野田 大阪大が第1回セミナー



専門家の話から村関係者が復興へのヒントを得たセミナー

大阪大が今月野田村に開設した研修拠点で11日、第1回セミナーが開かれた。同村から

復興へのヒントをつかんだ。村の教育関係者や同大の教員、学生ら約30人が参加。米国カリフォルニア州サンタクルーズの地震で商店街復興に携わったチャールズ・ブーディーさんは「復興はスタートダッシュが肝心だが、その後はマラソンに変わる」と説明。復興計画は継続した取り組みの中に、時として変化を伴うと指摘した。奥尻島で北海道南西沖地震を経験した北海道大の定池祐季助教は、住宅再建直後に亡くなった住民がいた例を挙げ、「住宅再建は大きなゴールでなく、長いマラソンの区切りと考えてほしい」と訴えた。同村の研修拠点は、世界的なリーダーを養成する大阪大のプログラムの一環で開設。大学院生の被災地研修の拠点となる。セミナーは村民も参加する形で今後毎月11日に開講。村民が教員役になることも検討している。